

道徳だより

Do 徳 ? と説く ?
どう 道 talk .

テーマ：「主体的・対話的で深い学び」の実現へ

令和 8 年 8 月
京都市小学校道徳教育研究会
広報部
(第 3 号)

主体的・対話的で 深い学びを実現する 「道徳授業の 魔法の呪文」



「～べき」タイプの授業



指導者ばかりが
よくしゃべる

べきべき疲れる授業

魔法の呪文で
アップデート!

「～たい」タイプの授業



児童生徒が主役!

聴きたい・語りたい・考えたい

大切にしたい授業

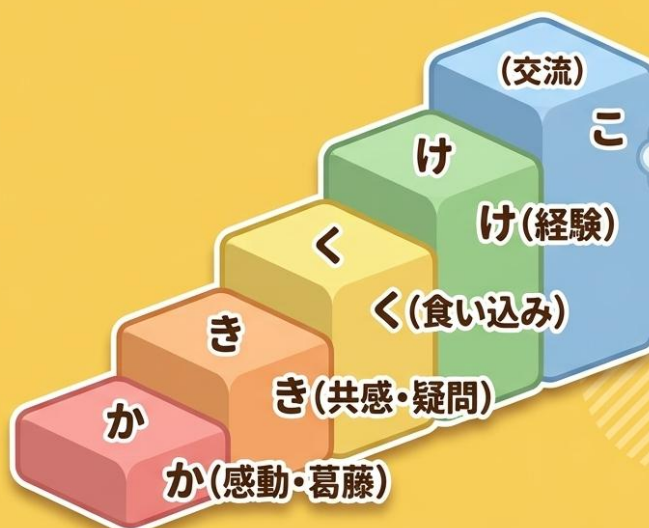
道徳における「わかる授業」とは？

「学びがいのある授業」へ導く、3つの理解



聴ける・語れる・深く考えられる集団へ！

有意義な道徳授業を創造する「か・き・く・け・こ」



「主体的・対話的で
深い学び」の実現

STEP 1: 授業の熱量を生み出す「着火」のフェーズ



か (Ka) - 感動・葛藤

「考えたくなる」仕掛けを作る

- 価値葛藤・心理的葛藤を誘発する
- ただの「話し合い」ではなく、必然性のある「語り合い」へ《改善》



き (Ki) - 共感・疑問・気付き・驚き

既成概念・価値観をくだく！

- しっかり「聴き合い」、共に考え育つ「協働・共育」の空間へ

STEP 2: 学びを深め、生徒の人生に繋げるフェーズ

く (Ku) - 食い込み



児童生徒の
言葉を生かす！

「なぜ？どのように？」を
大切にした重層的発問。
「反問教師」となり、問い返し
でさらに思考を深める。

け (Ke) - 経験



具体的生活の
振り返り《検証》

一人一人の具体的な生活経
験を振り返り、授業での
気づきを実生活に活かす。

こ (Ko) - 交流



多様な感じ方・
考え方の交差点

授業は生きもの！
こだわるな！

「～たい」授業で、心震える道徳を。



「か・き・く・け・こ」を意識するだけで、
生徒が主役の「学びがいのある授業」へ変わります！

授業づくりにおいてのちょっとしたコツです。児童同士、児童と教師など、対話から学びが深まる道徳。参考にいただければ幸いです。

【文責】 齊藤 正幸 (鏡山小学校)